

パン種に用心なさい

以下は、坂野桂吉氏の著書「創世記」の記述についての考察である。

1. 創1:3は、神が「光がある」と仰せられた...すると「光がある」、と訳すことができる...
これは神の言葉・霊とその実行は一体であり、言語的表現や伝達距離はないことを示唆する。
すると、神が人間の言葉を話すのではなく、人の霊が得た情報を自分の言葉で表現している。
2. 「第一日」というのは、二十四時間と考える説や、一定期間と考える説...
このように聖書の記述を正しく理解しようとしてできないのが人間の能力の実態である。
この言葉は「人の霊が見ている、昼が過ぎ夜が過ぎた。一回目。」というだけの意味。
3. 第三日に造られた植物より第四日に造られた太陽のほうが後に創造された...？
第二日に、地上の水蒸気濃度が下がって下の水と上の厚い雲の間を光が遠くまで届くようになった。第三日に、下の水が海と陸に分かれ、陸地に植物が生えてきた。第四日に、空の雲が薄くなって消え、太陽と月と星が現われた、という解釈で疑問は解ける。
4. このエデンの園を中心として人が全地を支配するように考えていたからであろう。
こうした考えや情報発信は根拠がなく、現代では「陰謀論」として封殺されてしまう。
5. 神はなぜ食べてはならない木を設けたのか。それは...だからである。ではなぜ...。
聖書の記述が理解できないため、繰り返し自問自答し、検証もせず推論を進めている。
6. 創世記三章は、神話でも例え話でもなく事実である。もしこれを否定するなら、アダムの罪とキリストの贖罪の関係が否定されてしまい、...。
神話か、例え話か、事実かを調査検証することを拒否している。それは、教会が教えている教義を守るためである、と著者自身が述べている。この教義をパン種にしてよいか？
7. 一人の人によって罪が世界に入り、罪によって死が入り、こうしてすべての人が罪を犯したので、死がすべての人に広がったのと同様に...一人の義の行為によってすべての人が義と認められ、命を与えられます。
この記述は、教会また著者が信じ宣教する教義の根拠であるが、その意味は明瞭とはいえない。
 - 1 (ヤコブ1:15)「欲がはらんで罪を生み、罪が熟して死を生みます」罪が初めからあるとは述べていない
 - 2 (創世記4:7)「罪はあなたを恋い慕うが、あなたはそれを治めなければならない。」つまり治められる
 - 3 (創世記6:3)「人の齢は百二十年にしよう」人の死は、罪ではなく主の御心によって定められている。
 - 4 (ヨハネ3:36)「御子を信じる者は永遠の命を持っているが...」死も命も自動的に伝搬しない。
(↓聖書は、現実世界的设计図である。)
8. 現実を見てその事実を確認できれば、それは語句の加減なしに聖書の記述の正しさを証する。

(現実の観察)	(聖書の記述)
・セックスは男女の重大な肉欲求	・アダムとエバ、エデンの園の中央の木
・性器は状況によって喜びや苦悩を生む	・善悪の知識の木
・自由な飲食とは違い制約や規範が伴う	・食べてはならない
・命を捧げる愛、凌辱後の自殺等、命が代価	・食べると必ず死ぬ

(ジェンダー思想によってセックスの規範を廃棄すれば、社会は混乱する)